

おお大勝利

平成 28 年度山東サッカー一部報第 12 号 (7 月 30 日)

サッカー一部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー一部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

震災復興支援活動 今年も継続

3 連休中日 7 月 17 日 (日) に、今年も宮城県牡鹿半島へ震災復興奉仕活動に行っていました。この企画、青年会議所 J C の中に設けられている国境なき奉仕団というボランティア組織の協力を得まして、実施にこぎつけている。**山東サッカー部の参加はこれで 5 年目**。山形の団長を務めていらっしゃる**遠藤さん (遠藤物産)** にコーディネート及び引率して頂き、**岡崎さん (タカミヤホテルグループ)** にはバスを運転してもらい、移動費から何からすべて奉仕団におんぶに抱っここの企画。本当に貴重な経験をさせてもらっております。今年も顧問今野がサッカー関係の仕事の都合で急きょ秋田に行くこととなり、顧問志村が引率。一応、私は当日行けないまでも、「自分たちの修行のために働かせて頂きに行く」という企画の趣旨を前もって生徒に説明。「相手のために活動に行く」という気持ちだけが先走ると、思い通りいかなかったときについつい「来てやったのに／働いてやってるのに」という傲慢な気持ちが芽生えがち。「自分の人間的成長のために行くんだ」となれば、活動は謙虚であり続けられるだろう。もちろん、活動は被災者のためでなければならず、決して自己満足ではだめだが、「自分の修行として行く、結果、相手が喜んでくれたら尚うれしい」という気持ちの構えは毎年強調している。自分が行けないので、やや不安ではありましたが、山東サッカー一部諸君、立派に働いたそうです。ここは引率してくれた志村顧問のコメントを掲載いたします。

作業はいずれも漁業支援で、私はホヤの養殖に使用する牡蠣の貝殻に紐を通す作業に混ぜて頂きました。盛り上がりのある牡蠣の貝殻の上下を合わせて紐に通し、海に入れられる状態にする仕事です。作業に慣れてくると、スピードも速くなっていき、皆が競うように完成させていきます。ハレル部長は、ボール盤で、貝殻への穴あけを担当。文字通り「射抜くような」眼差しでドリルを操作する様子は、まるでその道ウン十年の熟練工のよう。部員は皆、とても意欲的に取り組んでいて、受け入れ先の方々からも非常に可愛がられ、昼食を持参していたにも関わらず、お弁当を頂いたり、蒸したホヤやバナナをご馳走になったり、作業後に浜辺に連れて行って頂いたり。帰路の途中で、震災後に建てられた慰霊台に参拝しました。震災後の石巻の経過について遠藤さんから説明して頂き、復興を目指す気持ちを新たにしました。

解散時に、遠藤さんから、「今日の活動を、『楽しかった』でも、『疲れた』でもいいから、ぜひお家の方々とお話しして下さい。それがあの震災を忘れないことに繋がるのです」というお言葉を頂き、山東サッカー一部として、また、同じ東北の仲間として、決して風化させることなく、今後も被災地のために、微力ながら貢献を続けたいと感じました。**遠藤さん、岡崎さん、そして受け入れて下さった漁業者の皆様、本当**

にありがとうございました。

県リーグにて新チーム始動 1勝1分け

7月18日(月)3連休最終日にY2B第9節酒田西戦が行われました。酒田西とは県リーグ初戦にて対戦し、今年のチームを占う戦いとしての位置づけの大切な試合を、4月に何とか逆転でものにしている。昨シーズンは(地区大会・1年生大会を含め)公式戦にて4勝しかできず、昨年は私も「史上最低の学年」と厳しく呼びましたが、この酒西戦にて特に守備への不安を払拭できた思いが深かった。冬場のトレーニングや春先の遠征にて攻撃には一定の手応えがありましたが、この試合の守備の安定を観て「今年はいけるかも」という手応えを得ることができた。そんな試合だった。**第9節は、いよいよ新チーム初戦**。もちろん新チーム初戦は6月25日の明正A戦ですが、あのときにはまだ3年生が引退せずに残っていた(ユート以外試合には出場していませんが)。7月9日の山本A戦そして7月11日の引退式をもって3年生が引退し、1・2年+3年ユートのみで活動を開始してからの初戦。やはり本当の初戦をここ酒西戦と呼びたい。酒西も3年生が引退し新チームで臨むので、「選手権に臨む新チーム同士の対戦だな」と何も考えずに会場に来たところ、酒西も3年生が1名7月まで残る、しかもその1名が最も警戒すべきトップの選手¹と聞いて大慌て。「そんなの聞いてないよ」と口を尖らせましたが、聞いてない方が悪い。いや、というか、対戦直前に相手チームの事情に対して一喜一憂するのがおかしい。「そういうこともある、いや、そういう逆境をこそ歓迎せねばならない」と無理矢理言い聞かせ、試合に臨む。

場所は酒田市北港緑地公園。**清野総監督**が都合が悪くお越しにならなかったため、**後藤報道局長**が総監督代わり。**工藤先輩**もいつも通りお越しになった。工藤先輩が「面白い試合観せてくれるものだからよ～」と試合前に仰って下さいましたが、この試合どうなるか。海沿いで風が強い印象がありましたし、酒田の南側の鶴岡は大雨と聞いていたので、心配しながら酒田に来ましたが、好天無風。天然芝の状態も良い。遠方にもかかわらず多数の保護者が来て下さる。**今年はY2Bで好成績を上げていますが、思い返せばまったく勝てなかった昨年もたくさん応援に来て下さっていた。後援会(OBOG会)の方々含め、有り難い限り。**

試合が始まると、入り決して良くない。試合の入りはリスクを取らず大きなフィードで陣取り合戦、と割り切った申し合わせではあるが、そのフィードが中途半端。相手DF裏を狙うのか、山東FWの頭(または胸・足)を狙うのか、誰(どこ)を狙っているのか、よくわからない。**ロングパスは、あくまでパスであって、単なるキックではない**。私見では、(筋力がつき5号球にも慣れてきた)14歳くらいからはフワリとした球質、ライナー性の球質、カーブをかけた球質、地を這う球質と蹴り分けてもらいたい(すぐできずとも、そういう練習をひたすら積んでもらいたい)、そしてそれも技術の一つと考えているが、山東の選手、他の山形の選手同様、キック練習が足りない²。アバウトなキックを、いいバックステップで対応する酒西DFにことごとく跳ね返される。FW・MF陣のボールロストも多い。イライラが募るこの試合、逆襲から山東左サイドを打開され、それを(山東にとって低い位置で=山東ペナルティエリアちょい外付近で)山東右サイドまでつなぐれ、最後はカットイ

¹ Y2Bでベスト11を選んだら、この選手は間違いなく入ります。

² というか、キックを技術の一つと考える意識があるかどうか。

ンからの右足シュートをブロックできず、鮮やかにサイドネットを揺らされる**完璧な一連の流れで崩されて、失点**。齋藤 GK コーチは、試合後、そのシュートに対して、「(DF がニアサイドを切っていて) コースはあのファーサイドしかなかったから、GK ハレルに止めてほしかった」と厳しく語っていましたが、FP 目線の私は打たせた DF が悪い。というか、**シュートブロックを含む一連の山東のディフェンスすべてが悪い**。この試合を通して課題となったことですが、**山東の選手、内側を切って (内側に行かせない体勢で) ボールとゴールを結ぶ角度を守り続ける (相手選手の切り返しを狙う) 基本ができていない**³。もちろんそのように、指導者である私が指導できていない。だから、外側にパスしようとした相手に対して外側まで足を延ばしてパスカットに行き、パスフェイントに引っかかり内側にドリブルさせるという目を覆うばかりの失態を演じてしまう。四角形を作り 4 人でボールを回し、その中にいる相手 2 人にボールを取られないようにするというサッカー選手なら誰でもやったことがある (そして山東でもしばしば行っている) 4 対 2 という練習でも、ある方向からボールホルダーにアプローチした守備者 (1st Defender=チャレンジ) が逆の方向へのパスを警戒して足を延ばし、自らが当初アプローチした方向へボールを運ばれる (パスされる) のは、最悪なこと。だって、相棒の 2nd Defender=カバーは、1st が当初の方向にだけはボールを運ばせないようにそのパス角度を切ってくれる (そうなれば 4 対 2 ではなく 3 対 2 の局面を作る) ことを前提に、自分たち守備者の間を突くパス (ボールホルダーの対角線上にいる選手へのパス) を特に警戒しつつ、守備をしてるんだから。**要は、ボールホルダー (1st Defender=チャレンジ) が角度を守らないと、2nd 以下の選手の計算がすべて狂ってしまう**。その原則が身につけていないのは高校生にもなってお粗末極まりないし、4 対 2 の練習を散々やっつけていながら！勘所を押さえていない姿は呆れるばかり。そしてそのように基礎基本を定着させていない指導者=私は、失格です。とまあ長々山東の課題を書きましたが、1 失点した後、**黒豹こと左 SB リキ**の突破から最後は **FW アダチ**が流し込み、1-1 とする。しかし流れは一向に山東に傾かない。FW は突破できず、ボランチは相手に切り返しを許してばかりだしラストパスも雑、そして CB・GK は・・・CB 裏に出されたが相手を背にし自らの方が早くボールを確保。GK 前がかってボールをキャッチに行く。CB 体を入れて待っているが、なかなか GK が到着しない。CB、体を入れ続けられればいいのか何なのか疑心暗鬼になる。と、こう書くと長い時間のようなようですが、それは一瞬の出来事。ただし、いろいろ対処があり得た一瞬でもある。その間に相手 FW に体を入れ替えられ、ボールを奪われ、GK かわされ、無人のゴールに追加点を許す。**昨年から今年の県総体にかけて、繰り返し見ているこのシーン**。①体を入れ続けられなかった CB が悪い、②すぐボールに來れなかった GK が悪い、③來ない GK を前にして次善の策としてボールをクリアできなかった CB の判断が悪い、④時間がかかるなら (距離があるのなら) CB がボールを確保できているのだからバックパスを要求しなかった GK の判断が悪い。これらすべて当てはまる。しかしそもそも⑤GK は CB に体を入れて相手をボールから遠ざけるプロテクションの指示を明確に出したのだろうか。「キーパー」という GK の声がけは、局面によって、キーパーへボールをバックパスしろという意味にも、キーパーが取る (クリアする) から任せろ (プロテクションしろ) という意味にもなり不明確だから、試合前に「指示はプロテクション (体入れろ)

³ 自分よりも内側にいる相手にアプローチをした場合は、そのまま外側の角度を切り続けるのが基本 (一回取った角度は簡単に変えてダメ)。いずれにせよ、自分が最初にアプローチした角度にボールを運ばれる (切り返される) のは、守備の原則に反する。切り返しを狙うのが守備の基本です。

かバックパス（戻せ）のどちらかにしなさい」と確認していたというのに。いや、指示は「キーパー」でもいいんです。GK と FP の間で、その指示は GK が取る or クリアするということを意味するとの共通理解があれば。そして GK へのパスは必ず違う言葉での指示となるとの共通理解があれば。またまたお決まりパターンでの失点にガックリ。1-2。すると、その CB、さすがに落胆したのか、相手の何でもない浮き球の縦パスを後逸。そのボールをオフサイドポジションにいた相手の3年生FWに拾われネットを揺らされる。1-3。と思ったら、副審がフラッグを上げている。**確かにオフサイドポジションにいたから、何もしてなければオフサイドだが、山東CBが右腿の付け根あたりでボールに触れてますからね。これはオンサイド。**相手ベンチの抗議でも判定は覆らず。そこで思いました。「得点を取り消されたり失点を取り消されたり、人生は公平にできてるんだな〜」。ともかく1-2のまま。ただし「ラッキーラッキー」なんて喜べない。酒西さんに悪いという意味もありますが、そのようにプレーしてしまう山東の現実に暗くなるし、この試合、この失点を免れてもこの流れでは突き放されるのは目に見えている。山東が攻められないわけではないが、山東の得点より失点の方がリアリティあり。そのスコアで前半を折り返す。

後半は、一転山東の攻撃の時間が長い。後半から投入された**1年生FW漫才師タカヒラ**が、パワフルな突破または裏への飛び出しで相手DFのラインを下げ続ける効果大きい。前半**2年MFベジータ**が全く目立たず、「ベジが目立たない試合は山東の攻撃がうまく行かない」との**齋藤GKコーチ**の最近の分析の通りだな〜とと思っていましたが、ベジが目立たなくとも相方？タカヒラがいるってことか。押し気味の流れから、**3年FWユート**が混戦を押し込み2-2の同点、そして右サイドで崩してゴロで流れたボールをゴール前でドフリーで受けた**左SBリキ**が流し込んで逆転・・・とはいかず、60度くらいの角度で打ち上げ、大大チャンスをフイに。**これ、リキには悪いが予想できました。**しかし、その後、**タカヒラ**が裏への飛び出しから生まれたGKとの1対1を冷静に流し込み、3-2の逆転。「山東が圧勝できるから工藤先輩は『面白い』と言って下さるのではなく、不安定な力だけに手に汗握る試合を毎回するからそう仰るのかな〜」などと頭をよぎる。ともかく、逆転に成功し、選手は喜ぶ。しかしベンチの私は、「この試合、幻の1失点あるだけに、まだ同点」との思いがありました。選手に「もう1点取りに行かなきゃだめだ」と指示。**結果的にこの指示が悪かったか。**その後、酒西の波状攻撃を受け、結局堪え切れずに酒西3年生に決められ、残り5分で同点にされる。その後、逆転負けもあり得た流れながら、終了のホイッスル。**結局この試合3-3の同点。幻の失点があったので、形式的には引き分けでも、実質的には山東の負けです。試合内容でも、トータルに言って、負けてました。**酒西は3年生FWがさすがの働きだっただけでなく、ボランチがとても良く、マッチアップした山東のボランチはアップアップ（死語？）してました。**1試合を通して合格点を与えることができるのは2年CBタイセーくらい**⁴、あとは一山なんぼ。課題という収穫を多く得た試合となりました。

翌週7月23日（土）はY2B第10節山本A戦。1週空けての連戦。ただし、こちらは代替わりしているわけで、山本の選手は「連続して負けられない、しかも、2年に何か負けられない」と気合入ってくるのが予想される。ここまで山本はY2Bで苦しい戦いを強いられており、その点でも勝ち点3を獲りにアグレッシブに来ることが予想される。場所は白鷹町東陽の里。山東は夏期講習中ながら、公欠？を得て試合に臨む。この試合には、**清野総監督**がお越しになって下さった。

⁴ タイセーの対人での冷静さ、ヘディングの強さ、安定したフィードは、心強かった。

試合が始まると山東落ち着いている。酒西戦後、講習を終えると連日三者面談が入っており（3年担任なんです）、練習を**カイトとカンタの両GM**に任せ、1秒も練習を見ていない（そして指示も出していない）ので、どのような改善策を打ったか分かりませんが、顧問が来ない方が選手は伸びるということか⁵。山本も、山東のバイタルエリアをうまく使いながらボールを逆サイドに運ぶ意識が共有されており、縦に速い攻撃と合わせ技で、きれいに押し込んでくる。山東押し気味の展開ながら、決定的なチャンスを作れないでいると、CKを得る。**今年の山東、なぜかセットプレーで得点を量産している。これは監督である私にもよく理由がわからない**⁶。例年以上に期待をもって見ていると、**キッカーのポランチカンタ**が、ファミスタ⁷だったら「ボワーン」と間抜けな音がしそうな弓なりの遅いボールを蹴る。「馬鹿カンタ、そんなボールじゃ頭で合わせても速いボール行かないだろ」とベンチで憤っていると、**ユート**が相手をブロックしてヘディングのエリアを確保しつつ、叩き付けるのではなく逆サイドにGKの頭越しにフワリとしたヘディングシュートを放つ。そしてそれがネットに吸い込まれ、山東先制。**ヘディングもうまかったです、フェアに(notファール)相手を体で押さえつけ、ヘディングで体を振るためのエリアを確保した時点で勝負あり**。その後も、山東の攻勢続き、**ベジ**が飛び出すGKの上をフワリと浮かす小憎らしいシュートで追加点を上げ、前半2-0。

後半も山東攻勢。山本の時間もあつたものの、山本、前に人数をかけるよりも、失点しないようバランスを意識していた印象あり。攻勢の山東も、チャンスを確実に得点につなげる決定力を欠く。このままダラダラ（スコアが動かず）行きそうだな、と危ぶんでいたところで、**CBヒロ**が浮き球をクリアしようとした瞬間猛然とアプローチしてきた相手と激突し、両者倒れこむ。すると、異変を感じ取ったか、ピッチ内の選手・主審からすぐベンチへ人を寄こすようシグナルがある。**どうやらヒロ気を失っている模様**。取りあえず、すぐ救急車を呼ぶ手配をする。山本の選手は意識を失ったかどうか変わりませんが、とにかく両者とも脳震盪。程なくして意識を取り戻したヒロだが、動けない。意識を取り戻した直後だからではなく、**肩首あたりを故障した模様**。両者が到着した救急車と消防車⁸に搬送され、30分ほどの中断を経て試合再開。故障者から後を託され燃える山本に勢いを感じたので、ここで（残り10分）失点すると嫌な流れと懸念されましたが、**左SBリキ**が突破からそのままGKとの1対1を冷静に制し、3-0と突き放して勝負あり。結局そのスコアで山東の勝利。故障者が出て残念ではありましたが、3年生引退後初勝利を何とか得ることができました。

この2試合の応援ありがとうございました。

⁵ とはいえ、上述の酒西戦の反省は、かなり厳しい口調で当日にいたしました。

⁶ 去年はY1にいたので、Y1とY2の違いと言えば簡単ですが、一昨年・3年前もいたY2でも、セットプレーでの得点はあまり覚えがありません。

⁷ ファミリースタジアムというファミコンゲームソフト。

⁸ 救急車で足りないときは、救急救護設備の整っており、救命手もいる消防が呼ばれます。結局、山本の選手は脳震盪との診断で、意識を失い彼よりも重症と思われたヒロは置賜の病院では脳震盪ともに肩甲骨の骨折との診断でしたが、再検査のためにその日のうちに回された県立中央病院では**骨折なし強度打撲と判明。大事にならずに、一安心しました。ただ、一歩間違うと大変な事態にもなり得る対人競技の恐ろしさ**を改めて感じさせられました。**今回の故障に際し、保護者の皆様の迅速な対応に大変助けられました。ありがとうございました。**